

## 地域デザイン研究科（第2次） 都市デザイン試験 模範解答

### 【出題意図】

以下の能力を試験問題を通して把握する

- ・都市デザインに関する知識の度合い
- ・論理的思考力、文章表現力

### 【模範解答の例】（論述式の問題であるために下記は一例である）

都市の中心市街地におけるパブリック・アートは、人々の回遊性を高め、地域への愛着を醸成するうえで重要な役割を果たす。近年、地方都市では来街者の減少が課題となっており、魅力的な公共空間を創出することが中心市街地活性化の鍵となる。パブリック・アートは、単なる鑑賞物としてだけでなく、街に滞在する動機を生み出し、来訪者の写真撮影や SNS 発信を誘発することで、都市のイメージ向上や新たな来街需要の創出に寄与する。また、地域の歴史や文化を反映したアートは、住民の誇りや帰属意識を育み、文化的価値の継承にもつながる。加えて、歩行者中心の賑わい空間を形成し、都市の回遊動線にリズムや変化を与えることで、商店街や公共施設への立ち寄り機会を増加させ、経済的効果をもたらす点も重要である。

パブリック・アートを公共空間に設置する際の都市デザイン上の重要なポイントとして、第一に、**周辺環境との調和と文脈性の確保**が挙げられる。歴史的建造物の多い地区では景観保全との整合性が求められ、現代的な街区では大胆な造形が許容されるなど、都市のストーリーを読み解いたうえで作品の形式や素材を選定する必要がある。また、街路幅員や人流、周囲の立面構成を踏まえて、都市空間に適切なスケールで配置することが重要である。

第二に、**歩行者の安全性・ユニバーサルデザインへの配慮**である。動線を妨げない設置位置の検討に加え、触れても危険のない形状、滑りにくい素材、夜間における十分な照明計画が不可欠である。とくに中心市街地では高齢者や子どもも多く利用するため、誰もが安心して作品に近づけることが公共空間としての質を高める。

第三に、**アクティビティを生み出すデザイン**が求められる。単に鑑賞するだけのオブジェではなく、座る・触れる・写真を撮るなど、利用者の行動を誘発するインタラクティブな要素を組み込むことで、公共空間の滞在価値が向上する。また、アートが歩行者の回遊ルートを形成する「仕掛け」となり、街なかの商店街や広場へ人の流れを誘導する効果も期待できる。

第四に、**市民参加と持続的運用の仕組みづくり**が重要である。設置過程に住民や地元商店が関わることで作品への愛着が生まれ、**vandalism**（破損）を防ぐだけでなく、維持管理の協力体制も築きやすい。また、定期的なメンテナンス、再塗装、作品更新のサイクルなどを計画的に組み込むことで、公共空間としての品質を長期的に維持できる。